

シルビアシジミ *Zizina emelina* (de l'Orza)

【選定理由】

愛知県から本種が初めて記録されたのは 1950 年、稲沢市（旧中島郡祖父江町）の木曾川堤防からであった。その後、庄内川や矢作川などの堤防からも 1950 年代に生息が確認されたが、1961 年瀬戸市の記録を最後に報告がないこと、また、近隣諸県でのかつての産地でも近年の採集例がまったくないことなどから、愛知県からは絶滅したものと考えられる。なお、本県から「三河川合、大島川、1972 年 10 月 8 日」という 1 匹の標本が偶然発見されている（高橋, 2003）。

【形態】

都市部の人家周辺などにも普通に見られるヤマトシジミに一見類似した小型のシジミチョウで、♂の翅表は青藍色、♀の翅表は黒褐色、春型はやや大きい。両者の区別は、後翅裏面の中央やや外側の黒点列が、ヤマトシジミでは円弧状に配列しているが、本種では前縁から二つ目の黒点が内側に大きくずれている。近似種のヒメシルビアシジミ *Z. otis* は、2006 年にシルビアシジミから分離された種で、シルビアシジミに比し、裏面は淡褐色、黒点が不明瞭などの差異がある。ヒメシルビアシジミは南西諸島に産し、九州以北には分布しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県では、木曾川、庄内川、矢作川の堤防が主な産地であった。このほか知多半島や瀬戸市などからも記録があるが、その生息地の詳細は報告されていない。

愛知県の近隣県では、静岡県県の天竜川、長野県木曾郡奈良井川、岐阜県長良川、杭瀬川、牧田川、三重県桑名市町屋川、「湯の山」などから記録されたことがある。

【国内の分布】

関東地方以南の本州、四国、九州に分布する。種子島が南限となり屋久島からは知られない。

【世界の分布】

国外では、朝鮮半島に日本産と同じ亜種が、雲南省など中国に別亜種が知られる。

【生息地の環境／生態的特性】

本種の典型的な生息地は河川の堤防草地である。幼虫の主食草はマメ科のミヤコグサであり、丈の高い草本が茂る草地には食草が自生できず、放置されてススキなどが優勢になると食草とともにシルビアシジミも生息できなくなる。食草として、このほかウマゴヤシ、コマツナギなどが知られている。最近、大阪府や兵庫県では、シロツメクサに発生することも報告された。

愛知県以外では、河川の堤防のほかに、鉄道線路脇や海岸の小さな草地、空港の滑走路周辺の草地、なども生息地として知られている。

【現在の生息状況／減少の要因】

食草のミヤコグサは木曾川、矢作川の堤防で著しく減少しており、最近数年間はその自生を確認できないでいる。矢作川の堤防では、ススキ、クズなどが繁茂し、また運動場や駐車場に整地された所もある。堤防上の道路はすべて舗装されたことも食草の自生や本種の生息に不利な環境を作り出した。しかし、日本全国的な減少の原因については、食草の自生地の減少が考えられるが、なお明らかでない点が多い。

【保全上の留意点】

本種の減少の主原因は食草の自生が減ったことであり、その保全がまず望まれる。日本で最初に本種が発見された栃木県鬼怒川流域では、堤防の草刈の時期と方法について検討されており、また食草の生育を阻害しているとされるシナダレスズメガヤの除草を行い、ミヤコグサの減少阻止、シルビアシジミの保全に成果を挙げている。

【特記事項】

本種の和名の「シルビア」は、かつて *Zizera sylvia* と命名した中原和郎が長女の名に因んだものである。ただし、現在この学名は使用されていない。

【引用文献】

高橋 昭, 2003. 「三河川合、大島川, 8.X.1972」のシルビアシジミ. 佳香蝶, 55 (215): 59.

【関連文献】

特集「シルビアシジミ最近の研究成果」, 2007. 昆虫と自然, 42 (6): 1-33.

県内分布図

